

	東北大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	文学部（第1年次：210名） 文学研究科（M：89名 D：45名） 東北アジア研究センター
沿革	明治40（1907）年 東北帝国大学 設置 大正11（1922）年 法文学部 設置 昭和22（1947）年 東北大学へ改称 昭和24（1949）年 法文学部を改組し、文学部を設置 昭和28（1953）年 文学研究科 設置 平成8（1996）年 東北アジア研究センター 設置
設置目的等	<p>大正11（1922）年に、広く人文社会科学方面の知識を授けて、豊かな教養を持つ人材を養成することを目指して、法文学部が設置された。</p> <p>昭和24（1949）年に、人文社会科学的教養に基づく、人間性に対する鋭敏な感受性及び現実社会に対する透徹した認識を身に付け、国際社会の発展に積極的に貢献し得る、知性及び行動力を備えた人材を育成することを目的として、法文学部を改組し、文学部等が設置された。</p> <p>昭和28（1953）年に、人文社会科学を構成する各専門分野の研究を通じて、人類の知的遺産を確実に継承するとともに、その創造的発展に積極的に寄与し得る、研究者及び高度専門職業人を育成することを目的として、文学研究科が設置された。</p> <p>平成8（1996）年に、学内共同教育研究施設等として、東北アジア地域に関する地域研究を学際的及び総合的に行うことを目的として、東北アジア研究センターが設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p><b>【総論】</b> 東北大学における人文科学分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における人文科学分野の先導的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p> <p><b>【教育】</b> (学部)</p> <p>○ 人間性に対する鋭敏な感受性と現実社会に対する透徹した認識とを基盤に、国際社会の発展に積極的に貢献し得る、知性と行動力をもった指導的人材を養成する。</p>

- このため、教養の涵養、専門の修養、語学の鍛錬及び天職の探究の4つの学習目標を掲げて教育課程を編成するとともに、少人数教育と個別指導を実施し、外国語による授業科目を導入するなど、学部の国際化に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、平成16年度から21年度までの第一期中期目標期間（6年）に比し、平成22年度から25年度までの第二期中期目標期間中の4年間で、学生の海外留学が、約2.1倍（年平均で11.3名から23.8名）に増加している。
- 今後、グローバル化など大学を取り巻く環境の変化に応じた教育カリキュラムや教育体制の見直しに着手する。あわせて、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等により、学士課程教育の質的転換に取り組む。

#### （大学院）

- 人間の精神活動や社会活動への深い洞察力に基づいて異質の文化を理解し、高度で幅広い知識をいかすことによって、人類社会への貢献をなし得る指導的人材を養成する。
- このため、学生に対しては英語論文作成や国際学会発表の支援など、国際水準の研究指導を行い、「社会階層と不平等教育研究拠点」コースワークや国際的な高度学芸員を養成するための分野横断的教育プログラムを構築し、外国語による授業科目を導入するなど、大学院教育の高度化・国際化に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、平成16年度から21年度までの第一期中期目標期間（6年）に比し、平成22年度から25年度までの第二期中期目標期間中の4年間で、外国人留学生の受入れ人数が、約1.6倍（年平均45.3名から70.5名）に増加している。
- 今後、海外の大学との連携を通じ、人文科学分野の教育の国際通用性を高めるとともに、社会人や留学生を含め、グローバル化など時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

#### 【研究】

- 文化科学、言語科学、歴史科学及び人間科学分野における特に優れた研究実績をいかし、基礎的研究を最新の学問的課題に照らしながら現代的展開を図るとともに、学際的・国際的な研究を通じて各専門性の深化に取り組んでいる。

また、東北アジアの地域研究では、多国間研究スキームの下で文理連携により、地域の相互理解と問題解決に寄与するとともに、歴史資料の保全活動や地中レーダー技術を用いた遺跡・文化財調査等に取り組んでいる。

- これらの取組により生み出された研究成果は、平成22年度以降、年平均で282の論文、45の著書、15の英文叢書、55の国際シンポジウム

などを通じて国内外に発信している。また、東北アジアの地域研究は、史料・伝統芸能保全、遺跡探査技術の開発などにつながっている。

- 今後、更なる研究水準の向上を図るため、人文科学分野の継承・発展に寄与することはもとより、学内資源の再配分を踏まえた文系研究科間の横断的研究組織の構築や、海外研究機関との共同研究を推進し、我が国の社会の課題解決・文化の発展を牽引するとともに、我が国の社会・文化に関する研究成果を国際的に広く発信する。

#### 【その他】

- 地域の歴史資産を活用し、また、地方公共団体及び地域住民と協力して講座や文化事業を実施し、地域文化の発展に寄与している。
- 被災地にある総合大学として、人文科学分野の力を結集し、地域文化の再興、方言生活支援、臨床宗教師による心のケア、遺跡探査などの被災地域の復興と我が国の再生に向けた取組を推進している。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しと指導體制の充実・強化に取り組む。